

団長の心のものさし

創刊 記念号

人との対話 社会との調和

音楽的に力が付くこと以上に、相手を知る、相手と対話出来る・・・それこそが音楽、とりわけ歌をうたうという行為にとっては欠けてはならない要素だ。人間社会の中で生きていることを忘れてはならない。私たちの一つ一つの言動が、周囲の人々を生かしも殺しもする。それほどの

2010年前半戦終了！

年明けの「ドリームコンサート in ひょうご」から始まり、「高野尾小学校レクチャー&コンサート」「村林浩代ソプラノリサイタル」「ドン・ジョヴァンニ」「太郎生小学校閉校記念行事」「歌と郷土津の祭り」と、数多くの本番を消化した。実に多彩な内容だ。わずか3ヶ月という短い期間に音楽表現の様々な形を体験できたことは、演奏者にとっては恵まれているとしか言いようがない。自分たちだけでこれだけの多種多様な内容を網羅することはできない。関係者の皆様には本当に感謝したい。

「頼りにされている」「愛されている」・・・そんな表現が適切かどうかは別として、多くの方々と出会っていることが一番の強みと言えよう。そのことは、必ずしも望んでいることばかりが得られるという都合のい

い話ばかりではない。実はそこが一番重要なポイントだ。

「好きなこと」は何より習得が早く、エネルギーを掛けることが出来る(はず)。もし、うたおにが合唱活動を好んでいるなら、もっともっと積極的な姿勢を見せれば、必ず周囲は変わる、動くはずだ。それが文化活動だ。感動は人を動かす。

主体的な活動に携わる者にはそれなりの社会的責任を果たさ



オペラ「ドン・ジョヴァンニ」

好きなことだからこそ頑張れる

なければならぬ心積もりが必要だろう。影響を与えるからだ。悪い影響を与える可能性も含んでいる。そうなっては元も子もない。ならば「粹な計らい」は必須条件である。「どうしたら喜んでもらえるのか?」「どんなことをのぞんでいるのか?」その問いかけは、どんな時も僕の頭の中にある。「ええ格好をしたいから」「よく見られたいから」などと憶測する輩もいるかもしれない。でもそんな輩には勝手に思わせておけばいい。すべては結果が証明してくれるからだ。

パワーを持っているのである。だからやり甲斐があるのではないか。どんなに真摯に取り組んでいても、歪



感動的な太郎生小閉校記念行事

んだ見方をする人は必ずいる、ということも決して忘れてはならないのだが・・・。

基本路線は変わらない よりアクティブに！

何かが変わるわけではない。突き進むだけだ。ただ、音楽的にも運営上も少々原点を見つめる必要は感じている。音楽が第一ではあるが、もう少しメンバーのメンタルな交流は必要な気がする。妙にプロ的だ。もっと屈託のない笑顔が見たい。練習中もお茶のときも・・・。

村林浩代ソプラノリサイタル



うたおにの3月29日(月)の様子

練習内容

「コタンの歌」より

船漕ぎ歌

マリモの歌

熊の坐歌

みんなはどう感じるか知らないけれど、あれだけの作品をたった一度の練習でよく歌うと思うよ！素晴らしい！

集中力はハードスケジュールで培われた能力。追い詰められないとサボるからね。でも好きなことだから、いつでもテンションキープでいこう！

アルトに本馬場弥生さん、地主一美さん、ベースに小柴知之さんが新入団です。万歳！！